

中学校 2年 社会科 (地理)

考える
想像する
表す

話す・聞く
書く
読む

育成したい
国語力

複数の資料の情報から、現状を把握し、その原因を考え、さらには今後の展望や影響を予測し、自分の考えや判断に生かす。また、読み取ったことを評価し、自分の言葉で表す。

単元名 「世界のなかの日本の漁業」

本時の目標

- ・ 食料問題に対する興味・関心を高める。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・ 日本の漁業の特徴や課題、それらを生み出した原因を考えた上で、今後の日本の漁業を展望することができる。
(社会的な思考・判断)

本時の流れ

導入

最近の新聞記事(資料)からマグロ等の価格高騰の問題を知る。課題の確認

視点①

自分の経験や知識と資料をつなげて疑問点を読み取ります。読み取った疑問点はグループで話し合い、確かめ合うことが大切です。

展開

資料から情報を得る。

資料の折れ線グラフの沿岸漁業、沖合漁業、遠洋漁業、養殖漁業の線を色分けしたり、の棒グラフを年齢層別に色分けしたりする。

視点②

資料が示す事実について、その背景まで想像し、読み取ったことを吟味し、評価しながら自分の言葉で表す力をはぐくむことができます。与えられた情報の関係性を読み取り、自分の考えを書いて整理したり、深めたりすることが大切です。

日本の漁業の特徴や課題、それらを生み出した原因、さらには今後の日本の漁業の展望について、グループで意見を出し合い、さらに調べてみたい点を学校図書館やインターネット等を活用して調べる。

調べたことを基に今後の漁業の展望についてグループの考えを新聞にまとめ

視点③

新聞作りをとおして、資料の情報から、今後の展開や影響などを予想し、自分の考えや判断に生かす力をはぐくむことができます。

まとめ

互いの新聞を見て気付いたことを交流し、今後の日本の食料問題に対する興味や関心を高める。

国語力育成の視点

複数の資料から、現状・原因などを読み取り、今後の展望や影響を予測することにより、資料を様々な角度から読み取るようとする意欲や考える力をはぐくむことができます。また、グループ内で、意見を出し合い、新聞にまとめることにより、目的意識や相手意識をもって自分の考えを表す力をはぐくむことも期待できます。これらのことにより、「様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現する能力や態度を育てる。」という地理的分野の目標を達成する一助にもなります。

教材等の例

資料 マグロ等の価格高騰に関する記事

普及品マグロも規制の動き メバチ25%削減を勧告

日本が毎年大量に漁獲している中西部太平洋のメバチマグロについて、この海域の資源管理機関、中西部太平洋まぐろ類条約(WCPFC)の科学委員会が、総漁獲量を25%削減するよう勧告していることが20日、分かった。委員会は「現在の漁獲は多すぎ、このままでは資源量の減少が深刻化する」と評価した。

委員会は、この海域のキハダマグロについても漁獲量の10%削減を勧告。クロマグロやミナミマグロなど高級マグロだけでなく、メバチ、キハダといった価格が安く、日本人が大量に食べている「普及品」のマグロでも捕りすぎが続いていることが明らかになった。WCPFCは12月10日からサモアで開く会合で漁獲枠の削減を検討する。

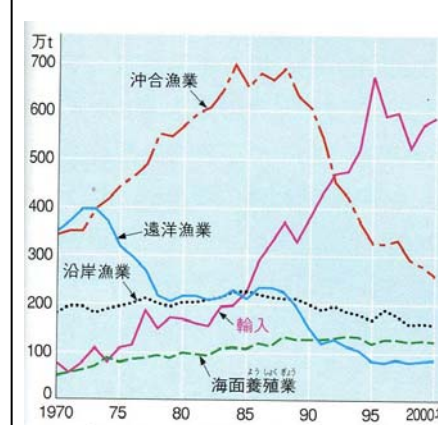
(2006年11月20日・京都新聞電子版 共同通信配信 無断転載禁ず)

資料 世界の漁場と漁獲量



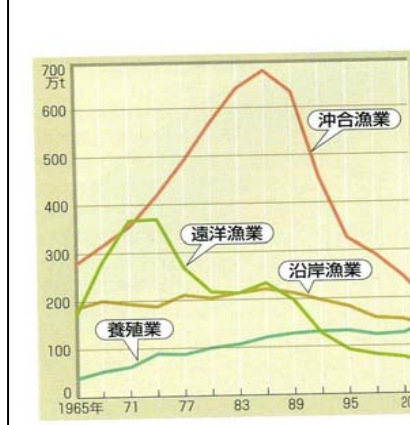
(大阪書籍「中学社会 地理的分野」より)

資料 日本の漁業形態の変化



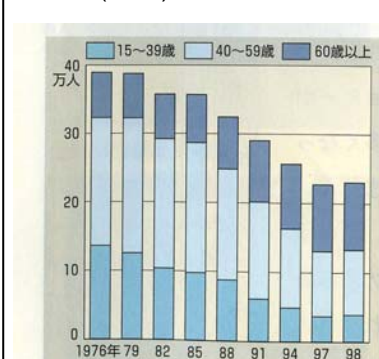
(帝国書院「社会科 中学生の地理」より)

資料 日本の漁獲量の推移



(大阪書籍「中学社会 地理的分野」より)

資料 年齢別漁業従事者数(男性)の推移



年齢別漁業従事者数(男性)の推移 (2000年刊 ポケット農林水産統計ほか)
(大阪書籍「中学社会 地理的分野」より)